

環境科学 A

〔例題 1〕 「GX 実現に向けた基本方針～今後10年を見据えたロードマップ～」に関する次の記述の空欄ア～エに該当する語の組合せとして妥当なのはどれか。

- 一 安定的で安価なエネルギー供給は、国民生活、社会・経済活動の根幹であり、我が国の最優先課題である。気候変動問題への対応を進めるとともに、今後GX（グリーントランスフォーメーション）を推進していく上でも、エネルギー の確保は大前提であると同時に、GX を推進することそのものが、エネルギー の確保につながる。
- 二 GX の実現を通して、我が国企業が世界に誇る の強みをいかして、世界規模でのカーボンニュートラルの実現に貢献するとともに、新たな市場・需要を創出し、日本の産業競争力を強化することを通じて、経済を再び成長軌道に乗せ、将来の経済成長や雇用・所得の拡大につなげることが求められる。
- 三 水素・アンモニアは、発電・運輸・産業など幅広い分野で活用が期待され、自給率の向上や再生可能エネルギーの にも貢献することから にも資する、カーボンニュートラルの実現に向けた突破口となるエネルギーの一つである。
- 四 2030年までのCCS事業開始に向けた事業環境を整備するため、模範となる先進性のあるプロジェクトの開発及び操業を支援するとともに、二酸化炭素の に伴う事業リスクや安全性等に十分配慮しつつ、現在進めている法整備の検討について早急に結論を得て、制度的措置を整備する。

	ア	イ	ウ	エ
1.	安定供給	発電技術	導入拡大	地下貯留
2.	安定供給	発電技術	導入拡大	分解技術
3.	安定供給	脱炭素技術	出力変動対応	地下貯留
4.	品質	脱炭素技術	出力変動対応	分解技術
5.	品質	発電技術	出力変動対応	地下貯留

【正答 3】

環境科学A

〔例題2〕 北海道環境影響評価条例の目的に関する次の記述の空欄ア～エに該当する語の組合せとして妥当なのはどれか。

この条例は、環境に著しい影響を及ぼすおそれのある〔ア〕について、環境影響評価が適切かつ円滑に行われるための〔イ〕、その〔ア〕の実施に際して講ぜられる措置等に関する〔イ〕その他所要の事項を定めることにより、その〔ア〕に係る〔ウ〕について〔エ〕ことを確保し、もって現在及び将来の道民の健康で文化的な生活の確保に資することを目的とする。

ア	イ	ウ	エ
1. 事業	手続	公害の防止	必要な対策が講じられる
2. 事業	手続	良好な環境の保全	適正な配慮がなされる
3. 事業	規制	公害の防止	適正な配慮がなされる
4. 建設工事	規制	公害の防止	必要な対策が講じられる
5. 建設工事	手続	良好な環境の保全	適正な配慮がなされる

【正答2】

環境科学A

〔例題3〕 燃料の燃焼によって発生するNO_xの排出を抑制する技術に関するア～ウの記述の正誤の組合せとして妥当なのはどれか。

- ア. 水蒸気又は水を吹き込むことによって、その気化熱を奪われること、及び熱容量が増加することで、燃焼温度を低下させることによってNO_xの発生を抑制することができる。
- イ. 燃焼域での酸素濃度を高くすることで、NO_xの発生を抑制することができる。
- ウ. 発生したNO_xを除去する技術として、アンモニアを用いた選択的接触還元法がある。

	ア	イ	ウ
1.	正	正	正
2.	正	正	誤
3.	正	誤	正
4.	誤	正	正
5.	誤	誤	誤

【正答3】

環境科学A

〔例題4〕 シマフクロウに関するア～ウの記述の正誤の組合せとして妥当なのはどれか。

- ア．日本最大のフクロウであり、日本では北海道及び北方領土に生息する。
- イ．河川や湖沼周辺の森林に生息し、北海道には広く分布する。
- ウ．魚類を主食とするが、両生類、甲殻類、鳥類、小型ほ乳類等も捕食する。

	ア	イ	ウ
1.	正	正	正
2.	正	正	誤
3.	正	誤	正
4.	誤	正	誤
5.	誤	誤	正

【正答3】